

案件概要表

Ⅰ. 提案事業の概要	
1. 対象国名	ラオス人民民主共和国
2. 事業名	農村部住民の食糧事情向上を目指した昆虫養殖技術普及事業
3. 事業の背景と必要性	ラオスでは、5歳未満児の慢性的な低栄養の改善が国全体の保健課題となっている。解決のためには、住民の知識のみならず様々な食材にアクセスの改善が必要であるが、ラオス農村部では、住民の殆どが自給自足で生活を営んでおり、季節・環境や世帯人員（労働力）に食糧調達が依存することで、栄養素のバラエティに富んだ食材を調達することが難しい。そのため、栄養価の高い食材を育て（養殖）、食し、余剰分は換金することで多様な食材にアクセス出来るようにすることは、解決策として合理的・効果的である。ラオスでは、昆虫がウシ・ブタ・トリと同様に取り扱われ、栄養価からも、また換金物としても優秀な食材であり、文化的背景を強みとして、昆虫養殖の技術を住民が獲得することが課題解決に有効であると考えた。
4. プロジェクト目標	住民が昆虫の養殖に必要な技術を修得し、昆虫養殖を実施する世帯数が増える
5. 対象地域及び管轄する領事館	カムアン県サイブートン郡パーコーン村、パークワイトン村、パークワイドン村、在ラオス日本大使館（同大使館が領事業務を司っている）
6. 受益者層 （ターゲットグループ）	直接受益：5歳未満児とその母親及び家族 230 世帯（1,215 名） 間接受益：その他の住民 220 世帯（1,112 名）、計 450 世帯
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<アウトプット> 1. 昆虫養殖の普及を支援するための拠点（卵生産拠点）が稼働する 2. 各村で養殖技術を伝えるチューター世帯が育成される 3. 養殖を希望する一般世帯において養殖技術が伝達される <活動> 1. 拠点運営に必要な設備（人的・物的）を整える 2. 各村においてチューター世帯を選出し、昆虫養殖技術トレーニングを開催する 3. チューター世帯を中心として、昆虫養殖にかかる説明会を開催し、一般世帯へ技術移転を行う
8. 実施期間	（西暦）2020 年 12 月 ～ 2023 年 12 月（3 年）
9. 事業費概算額	15,658 千円
10. 事業の実施体制	ラオス国保健省をカウンターパートとし、日本人駐在員 1 名、ラオス人職員 1 名で業務にあたる。日本からは、ISAPH 事務局、聖マリア病院をはじめとして、各専門家分野は大学等と連携をとって実施する。
Ⅱ. 応募団体の概要	
1. 団体名	特定非営利活動法人 ISAPH（アイサップ） 特定非営利活動法人 食用昆虫科学研究会（共同事業体）
2. 活動内容	ISAPH はマラウイ国及びラオス国において主に母子の健康増進を目的とした草の根活動を実施している。食用昆虫科学研究会は、昆虫の食材としての有用性を検証し、啓発活動を行っている。